

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成24年10月18日 (2012.10.18)

【公表番号】特表2010-513743(P2010-513743A)

【公表日】平成22年4月30日 (2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-542831(P2009-542831)

【国際特許分類】

D 0 6 M 15/00 (2006.01)

D 0 6 M 15/41 (2006.01)

A 4 1 D 13/00 (2006.01)

【F I】

D 0 6 M 15/00

D 0 6 M 15/41

A 4 1 D 13/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年8月30日 (2012.8.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) 少なくとも 70 % の繊維体積分率を有する熱および圧力を用いて圧縮された織基材であって、前記繊維が非溶融性の剛性ロッドフィラメントを含むフィラメント束として存在し、前記フィラメント束が 1 デニール当たり少なくとも 15 グラム (1 デシテックス当たり 13.6 グラム) の靱性を有し、前記フィラメントの過半数が角張った断面を有する織基材と、

b) 前記織基材とコーティングとを合わせた総重量の 25 重量 % 以下の量で存在する織基材上のコーティングとを含み、

非溶融性の剛性ロッド繊維は、ポリ (パラ - フェニレンテレフタレート)、ポリ (パラ - フェニレンベンゾビスオキサゾール)、ポリ (ベンゾビスチアゾール)、ポリ { 2, 6 - ジイミダゾ [4, 5 - b, 4', 5' - e] ピリジニレン - 1, 4 (2, 5 - ジヒドロキシ) フェニレン } ならびにそれらのコポリマーおよび混合物からなる群から選択され、フィラメント束における過半数のフィラメントは、尖った角、又は、エッジを含む角張った断面を有し、

前記コーティングなしの、角張った断面を有するフィラメントのフィラメント束の前記織基材のガーレー気孔率が、熱および圧力を用いて圧縮されていない同じ重量の織基材の少なくとも 5 倍である、弾道衝撃から保護するための剛性物品を強化するために好適なコーティング布。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のコーティング布の少なくとも 2 層を含有するラミネート。

【請求項 3】

請求項 1 に記載のコーティング布で強化された物品。

【請求項 4】

(a) 円形の、非溶融性の剛性ロッドフィラメントの束を含有する織基材を熱および圧

力を用いて圧縮してフィラメントの束を平らにする工程であって、前記フィラメント束が 1 デニール当たり少なくとも 15 グラム (1 デシテックス当たり 13 . 6 グラム) の韌性を有する工程と、

(b) 前記基材を圧縮し続けて前記フィラメントの円形断面を角張った断面にさらに変形させ、そして少なくとも 70 % の繊維体積分率を有する基材を形成する工程と、

(c) 前記基材の表面をコーティング材料と接触させる工程とを含み、

非溶融性の剛性ロッド繊維がポリ (パラ - フェニレンテレフタレート) 、ポリ (パラ - フェニレンベンゾビスオキサゾール) 、ポリ (ベンゾビスチアゾール) 、ポリ { 2 , 6 - ジイミダゾ [4 , 5 - b , 4 ' , 5 ' - e] ピリジニレン - 1 , 4 (2 , 5 - ジヒドロキシ) フェニレン } およびそれらのコポリマーからなる群から選択されるコーティング布の製造方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

織基材はフィラメントの束から製造される。多くの実施態様では、「フィラメントの束」は連続のマルチフィラメント系である。本明細書での目的のためには、用語「フィラメント」は、長さ対その長さに垂直のその断面積を横切る幅の高い比を有する比較的柔軟な巨視的に均一な物体と定義される。幾つかの実施態様では、フィラメントは、約 0 . 5 デシテックス ~ 約 4 デシテックスの線密度を有し、幾つかの好ましい実施態様では、フィラメント線密度は約 0 . 7 デシテックス ~ 約 2 . 0 デシテックスである。フィラメント断面は一般に、織基材の圧縮の前に円形またはほぼ円形である。圧縮後に、円形断面フィラメントの過半数は角張った断面を有する、すなわち、それらは、フィラメントの弾性限界を超えることによって形成された鋭い鋭角を有する。幾つかの好ましい実施態様では、フィラメントの 70 パーセント以上が角張った断面を有する。角張った断面の鋭さは、「交差箇所」とも呼ばれる、たて糸がよこ糸と交差する織基材中の箇所により顕著であることができる。しかしながら、たて糸およびよこ糸の全体にわたって、圧縮後に 70 % 繊維体積を達成するために、フィラメントの過半数は、光学顕微鏡法によって確認した際に角張った断面を有する。